

平成 28 年度三重四川災害対応連絡会 第 1 回宮川委員会 議事概要

- 1 日 時：平成 28 年 8 月 17 日（水） 14:00～15:00
- 2 会 場：伊勢市役所東庁舎 4 階 4-3 会議室
- 3 出席者：委員会構成員
伊勢市 鈴木 健一市長
玉城町 辻村 修一町長
三重県 県土整備部 施設災害対策課 倉田正明課長
同伊勢建設事務所 吉田勇所長
同松阪建設事務所 服部喜幸所長
気象庁 津地方气象台 日当智明台長（代理：奥田宗廣水害対策気象官）
国土交通省 三重河川国道事務所 川村謙一所長
- 4 議 事：1. 平成 27 年 9 月鬼怒川決壊の概要
2. 水防災意識社会再構築ビジョンについて
3. 現状の水害リスク情報や取組状況の共有
4. 減災のための目標（案）及び取組例について
5. 今後のスケジュールについて
- 5 議事概要
 - ・ 5 年間で達成すべき目標、目標達成に向けた取組について確認し、了解を得た。
[出席者の主な発言]
 - ・ 災害に対して関係する方々と顔を突き合わせて話ができるこのような機会は大変有り難い。今までも、災害発生時には、国、県には尽力を頂いている。宮川ダムの放流や洪水予測などきめ細やかな情報提供をしていただき、市から住民へ情報提供できるので有り難い。
 - ・ 避難情報を発令した後に住民にどのように避難してもらうか大きな課題。最近では避難情報として WEB を使用した情報発信が強い武器になっている。年に 10 回ほど防災体制を取っているが、WEB 情報より今後の展開を推察し、各河川に職員を配置させ現場の水位を確認している。県や国から情報提供をしてもらうことで 2 時間後、3 時間後の状況を議論できる環境が有り難い。
 - ・ 避難勧告等の発令の際の区域指定をすることが難しい。
 - ・ 警報が発令された場合「防災みえ」や「川の防災情報」から情報を得ている。今後、さらにアクセスが増加すると思う。これまで以上のきめ細やかさと、サーバーがダウンしないように環境整備をして頂きたい。
 - ・ 避難困難者となる高齢化率は 29%。1 年ごとに 1 ポイントずつ上昇している。避難困難者をどのように避難させるかが課題。民生委員や自治会を中心に避難困難者をどのように避難させるか準備を進めているところ。住民や行政だけでも限界がある。避難困難者への支援のあり方についても皆様と議論して知恵を頂きたい。
 - ・ 災害時の排水ポンプ車の派遣は有り難い。引き続き排水ポンプ車の派遣の協力をお願いする。
 - ・ 宮川右岸の地区では气象台・国交省と連携して防災教育に力を入れている。平成 16 年台風 21 号での被害が大きかったこと、桜づつみの区間で漏水が発生したこともあり防災意識が高い。避難判断伝達マニュアルや防災メールなど、引き続き対応していきたい。
 - ・ 平成 16 年災害を受け、国、県で河川事業を進めてもらったこともあり、平成 16 年を超える雨が降った場合でも約 1/4 の被害に減少する結果が出ている。今後も堤防整備の要望や無堤区間の早期完成をお願いしたい。

- ・水害ハザードマップは早期に実施していく。
- ・自然災害には想定できない不可抗力がある。災害後に責任の追及などもよくある。日常の維持管理の重要性は、災害の教訓から学ぶ必要がある。以前は地域住民が治山治水の考えが強く、集落に被害が起こらないように管理していた。今の時代は維持管理だけでは難しい。
- ・日々の管理の積み重ねが大切。平成 16 年災害を受けて度会橋周辺を整備して頂いた。感謝を申し上げる。日常管理がされた上での災害なら不可抗力であるので仕方がないが、日常管理が行われていない場合の災害はあってはならない。
- ・江戸・明治時代では、伊勢市中須町との境である屋田地区では何度も決壊したとの記録がある。決壊の記憶を引き継いでいる方や宮川で毎日水位を見ている人に、水位の情報を伝達してもらい、地域の方に避難をしてもらう。このように絶えず情報を共有して、過去の教訓を活かし、日頃の意識の共有を強くする必要がある。
- ・宮川の河川改修には感謝申し上げる。引き続き河川改修の早期完成をお願いしたい。
- ・破堤を想定した災害訓練を行っている。想定外をいかに考えて訓練することは大事。町内ごとに自助訓練を実施し続けることが大切。防災に対する意識が薄れていくと言われていることもあり、小学校区単位で「まちづくり協議会」がある。23 の団体があり、防災活動の推進も取組中。
- ・国、県からの情報提供を頂けるとありがたい。冒頭の气象台の説明が分かりやすかった。台風経路と地理的な関係からの防災知識が得られた。地理や気象関係を地域の防災教育として講演して頂きたい。このような知識は防災知識として役立つ。
- ・防災教育では字名の由来を調べると地名と自然災害の歴史状況が分かる。いろいろな方向からアプローチをしていただき、専門的な知識をレクチャーしてもらおうと防災教育の推進となる。ソフト面やハード面を進めて頂きたい。
- ・熊本地震や鬼怒川では、まさか自分の身に起こるとは思っていなかったと思う。この地域でこれまで、どのような災害が起こっていたかなどを防災教育として力を入れていきたい。
- ・これまで 6 回ほど阪神淡路大地震の災害状況を見学する防災教育を実施。実際に現場を見ることで住民意識を変えていくことを目的で進めている。少しずつだが、自主的な活動が生まれてきている。
- ・日々の管理が行われていないものは土砂堆積。町も実施して住民、集落を守ることに力を入れていく。

以上を踏まえて、連絡会構成員で協力して取組方針をとりまとめていくことを確認した。

以上

(事務局作成)